

Title: 「青の時間 (TIME×BLUE)」



坂本 晶子
有り難さを忘れたくない。「有る」ことのむずかしさを知っていたい。漫画とダンスの畑出身のフォトフィールドワーカー。カメラとビデオとスケッチブックを友に、アジアの空間と対峙する。

● 最近のエントリー

- 📅 ジョードプルの城壁と街 (2006.06.22)
- 📅 街を歩けば (2006.06.22)
- 📅 街の色 (2006.06.22)
- 📅 青い都市 (2006.06.22)

● アーカイブ

- 📅 2006年09月
- 📅 2006年08月
- 📅 2006年07月
- 📅 2006年06月
- 📅 2006年05月
- 📅 2006年04月
- 📅 2006年03月

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS

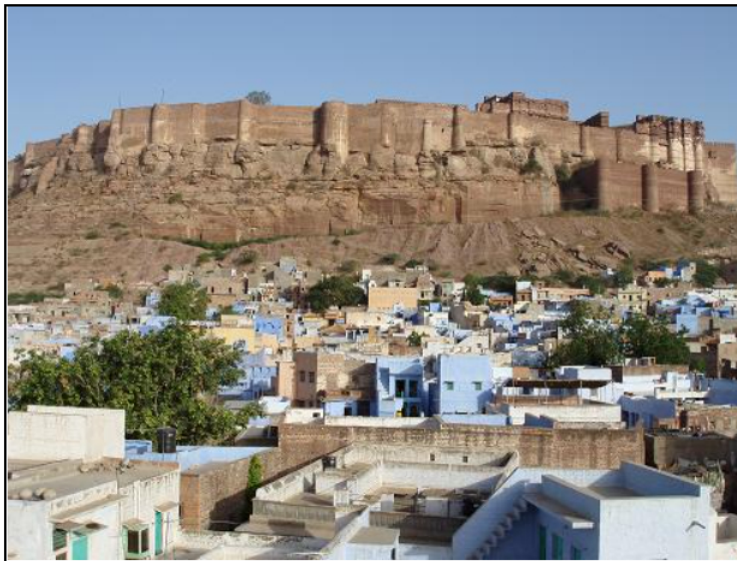
Your Vision, Our Future

RSS 2.0

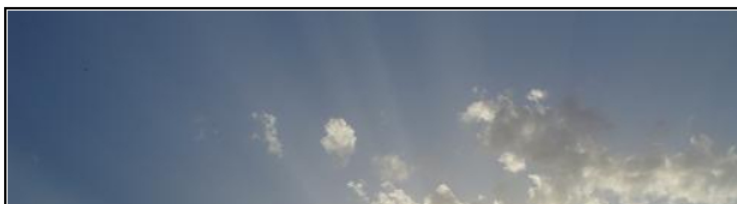
青の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

06.06.22

ジョードプルの城壁と街



fort2.JPG



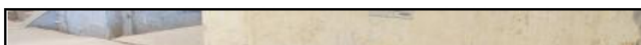


post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.22 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

カテゴリ:

青の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

街を歩けば







カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.22 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[青の時間 \(TIME×BLUE\)](#) > 2006年06月 アーカイブ

街の色





カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.22 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トランプバック\(0\)](#)

青の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

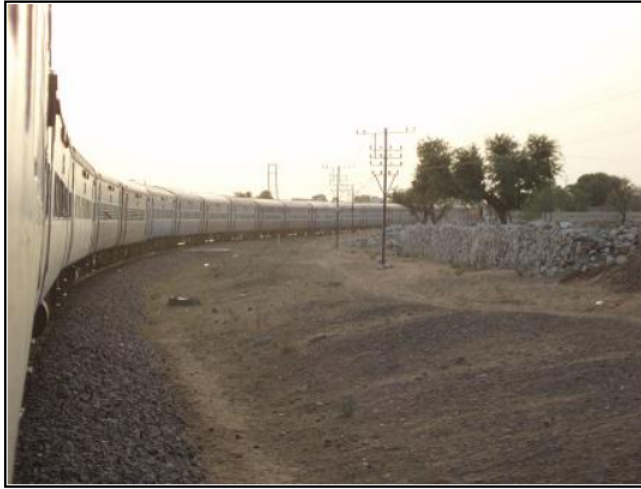
青い都市







次へ進む道





06.06.16

深い河の朝



バナラシ最後の朝
いつものように朝5時からボケボケと河を眺める
最初は嫌になりそうだったバナラシも今は好きになれそう
そんな気がする...
次はジョードフル
どんな街かな

カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.16 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

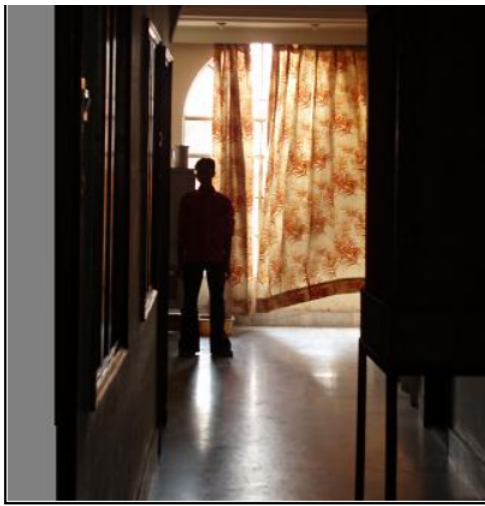
バラナシの部屋より

エアコンの効いた暗い部屋でゴロゴロ
マンゴーを剥いて
サイダーを飲んで
何しようかな



近所のネットカフェで画像を取り込みながら、バナラシの暑さに悶える
そんな空間で日本語をはじく
なんてアンニュイなんだろう





音のない部屋でゴロゴロ
暗い部屋でゴロゴロ

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.16 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

カテゴリ:

[春の時間 \(TIME×BLUE\)](#) > 2006年06月 アーカイブ

06.06.14

INDIA9



post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.14 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

カテゴリ:

days×days





カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.14 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[春の時間 \(TIME×BLUE\)](#) > 2006年06月 アーカイブ

サリーのみちを行く

バナラシ2日目、6月11日。
ウ・シュワナート小路をぶらぶら歩いていると結婚式に出くわした。
カンボジアでもちらっと出くわしたが、インドで結婚式を見れることをとても望んでいたの
で、とても運がよかった。
親類、縁者の袖あたりでマジマジと見ていたからか、はたまた外国人だったからか、新
郎がリキシャーの上から手招きしてきた。
自分のことを呼んでいるのか、それとも何なのかと...と戸惑っていると
「家まで来ないか？」
と誘われてしまった。



細い小路にサリーのような長い布をひき、新郎新婦はその上を歩きながら家へと進む。
新婦の父親や姉妹らしき人たちが歌を交しながら





新郎のシヴァ氏、新婦のアニータさん、お幸せに...

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.14 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

カテゴリ:

[春の時間 \(TIME×BLUE\)](#) > 2006年06月 アーカイブ

プジャーな夜





カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.14 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

春の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

コルカタに思いを残す

コルカタではインド人のお家に泊ってます。

いわゆるホームステイです。

毎朝毎晩カレーで、日本の"おかず"のような感じで何品かの種類がライスと一緒に食卓にのぼる。

ホスロ ホマイにも希らかく者込みであまった黄緑色の物体カレーを茹子と叫いバクバク食

ンと載せたのか、周囲の人にも伝わるべく、カバンをヒョッコリカカゲに掲げられた。
チェンナイの卸し市場同様、コルカタはフレンドリーで親切な人にたくさん出会えた、そ
う思う。



コルカタを去る日の夜、スティー先の家族が駅まで見送りに来てくれた。夕方のコルカ
タ
はとても混んでいてハウラー駅に着くのに1時間ほどかかった。
毎朝毎昼に動き歩いたこの町と、今通り過ぎている夜のコルカタとはまた違う空気が流
れていたのではないか？
インドの抱え持つ豊かさや貧しさがまじまじと表面化し、共存する都市である。
何で夜のコルカタを歩かなかったのだろうか？
車の中で強く思い、そしてそう思った街を通り過ぎながら、今日去らなければならぬこ
とを深く悔やんだ。
渋滞で進まぬスピードと車を降りれない今の自分が否応なしに絡んでいく。
いくつもの気持ちを残したまま、列車はコルカタから離れていった。

カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.14 | [パーマリンク](#) | [コメント \(3\)](#) | [トランプバック \(0\)](#)

青の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

威勢よき声、誰が声かな

撮影テーマは「マーケット」だったっけ？
そう思うってしまう程に、各国の都市で市場を訪れている。
花、野菜、果物、魚etc..さまざまな色とデザインと、それらが並べられている空間の
バランスがとても好き。



ガーネット色のざくろ
食べたらほっぺたが落ちそうな気がする..

でも最近はそので働く労働者にとても惹かれる。

とくにコルカタで気に入ってよく通ったのが野菜市場。
野菜荷物の運び屋労働者にとても惹かれてしまい、ずっと追っかけてました。
荷物はとても重いし、集中力がとてもいる作業なのに、こんな日本人に構ってくれて
本当に感謝、感謝です。



カボチャの荷物は400kg、これを10人程で持ち上げ4人で運ぶ。
頭に巻いている縦長のターバンで荷物を支え上げ、一気に持ち上げる。

「ターバンとタンクトップの色がとてもお似合いですよ☆」

知人のインド人にベンガル語で話してもらおうと、おじさんたちは一気に微笑んだ。

「お前もそんなちっちゃな体で、よくこんなとこ毎日毎日来るな」

私もちょっとそう思う。

でも、たくましい姿で自分の仕事を楽しんでる人はとても魅力的だし、そんな人たちの
姿から私は多くのことを学ばせてもらっている。

写真を撮り続ける行為は物理的にも、精神的にも、とても大変なことだけど、その一瞬
のほほえる空間と瞬間を見せてくれている、与えてくれているのは、そこに生きる人々に
他ならない。



06.06.09

オレンジワールド

コルカタ、ハウラー橋たもとの花市場。
いわずと知れた有名地である。
ちょうどマリゴールドの季節にインドを訪れることができ幸いである。
花屋（だけとは限らないが。）働くことはとても大変だが、好きなものに囲まれての
商売というのが羨ましい。



マリゴールド、1束60ルピー（2000円ほど）で売られる。





インドのチェンナイでも、コルカタでも花市場を訪れるたびに蓮を1輪もらっていた。
部屋に戻り、蓮を見るたびに気持ちが落ち着く。
蓮はとても穏やかな顔をしているのだ。

カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.09 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

吉の時間 (TIME×BLUE) > 2006年06月 アーカイブ

06.06.08

チェンナイ×マーケット

飛行機に乗り込んでいく時点で、今までの顔ぶりとは違っていくことに胸がおどろし、
さてこれからやっていけるか?と不安がよぎる。

インド、最初に降り立ったのはチェンナイ。
チェンナイの卸し市場に行くとき鮮やかな空間と、あふれんばかりの人々のエネルギーが波のように動いていた。
歩けば歩くほどに、その空間の魅力に取りつかれていく。



ジャックフルーツ屋のみなさん
威勢のよい掛け声で次から次へと果物を売りさばっていきます!!
毎朝市場を訪れるたび、市場の人々が手をふってくれる。





カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.08 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[音の時間 \(TIME×BLUE\)](#) > 2006年06月 アーカイブ

06.06.01

インドに行くって 本当ですか？...

あと少しでインドに旅立ちます。

あと8時間後くらいにはインドにいます。

寝むれないから、ジャスマンティーでも飲んでみます。

カテゴリ:

post by 坂本 晶子 | 日時: 2006.06.01 | [パーマリンク](#) | [コメント\(1\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)